

---

## 千葉キャンパス 総合福祉学部 平成24年度トピックス

新たな3学科としてスタートし、新カリキュラムも2年目を迎え、学年進行に伴い出現してくる課題に対応しながら進んだ一年だった。特に、教職課程にかかわる実習関係の授業においては、具体的な対応と準備に取り組んだ。その結果、次年度より実習教育センターに実習教育支援室を設置して実習にかかわる教育体制の強化を図ることになった。

1年間の主たるできごとを振り返ると、4月中旬に、恒例の新入生セミナーをコミュニティ政策学部と合同で学内と鴨川市において行い、1年生にとっては人間関係を作り、大学への帰属意識が高められる機会となった。また、セミナーの運営に協力してくれる上級生にとっても学びの意義を感じる体験であった。

夏（8月18～20日）には千葉キャンパスにおいて、第1回ハノイ国際大学・淑徳大学共同研究合同ワークショップが行われた。今年度からAPASWE（アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟）を通じたご縁で、ハノイ国家大学と本学との共同研究「ソーシャルワークにおける仏教の役割」が開始されている。

龍澤祭に併せて行われるホームカミングデイ（11月3日）は、オープニングセレモニー、講演、懇親会の3部構成で行われ、130名を超える参加者があった。講演では「共に生きる一障がいのある方と共に語る淑徳の未来」と題して川真田特任教授を中心に、学長、卒業生、障がいのある方が登壇して率直な考えを話され、闊達な意見交換の時間となった。

東日本大震災支援活動においては、「ソーシャルワーカーの声プロジェクト」が始動し、被災地で支援を行っているソーシャルワーカーの声を学生が聞き取り、記録として残すことを目的に始まった。息の長い支援につなげていくことが期待されている。

その他に、千葉市・大学等共同研究事業として実践心理学科岩井准教授の「福祉作業所・授産施設等の生産物購入者の意思決定に関する研究」が選定され、学生の協力のもとに進められており、龍澤祭においても発表された。また、社会福祉学科米村准教授による『長谷川よし子の生涯 —マハヤナ学園とともに』が、長谷川仏教文化研究所の淑徳選書として発刊された。本学の創立者である学祖・長谷川良心の妻である長谷川よし子の生涯を資料とインタビューをもとに構成され、その生き方が社会福祉そのものであったことを示すものとなっている。

# 1 教育課程 ①〔社会福祉学科〕

関連委員会	
関連部署	社会福祉学科
関連データ	・総合福祉学部・学科の授業科目

第1部

III 学部・研究科等による取組み

1 千葉キャンパス

## 1 平成24年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

- (1) 福祉、保健・医療、学校教育、その他広くコミュニティサービスに携わる職業人として進んでいく際の教育課程上の各節目に必要な、福祉領域への関心や職業選択、福祉を学ぶことの楽しさを醸成する機会を導入し、特色ある教育課程開発への取り組みを開始する（動機づけ教育の活性化に向けた基盤整備）。
- (2) 専門教育科目間連携（講義科目、演習科目）の現状分析と課題の抽出。

## 2 具体的計画

## PLAN

- ① 将来ソーシャルワーカーを目指す学生の“キャリア形成”を意識し、千葉県社会福祉士会と本学科との初のコラボレーション体制を構築するために、会長、研修担当理事、会員ソーシャルワーカー有志による定期的な勉強会を発足。次年度からの本格実施に向けた基盤整備を行う。… (1)
- ② 福祉マインドを有し福祉分野をはじめとする様々な分野のフィールドで活躍を希望するビジネスパーソンの本格養成に向けて人脈作りを始める（萌芽的挑戦）。… (1)
- ③ 社会福祉士養成の基幹を成す、実習・演習教育の学科教員間でのコンセンサスを得るべく、相談援助実習運営委員会の協力を仰ぎつつ、必要な知識・技術の再整理・再確認の作業を行う。… (2)

## 3 取組状況

## DO

- ① 1年生が、複雑な福祉の仕事をその骨子をそこなわずに理解し、仕事への関心をやりがいレベルまで無理なく高めていけるシステムの構築（正課外授業）に向けて勉強会を実現（6月～12月まで不定期に）。毎回10名前後が出席。学生の現状を伝え、ソーシャルワーカーのメッセージをそこにどう織り込んでいくかを検討。12月には（次年度前期から正課科目とリンクさせて実施する青写真を作成）おおよその流れを共通の理解とする。… (1)
- ② 社会福祉学科で着手されて来なかった領域であるため、従来の福祉実践活動以外で、民間（企業）レベルで取り組まれている“福祉”マインドを活かしたビジネス事例を可能な限り収集。必要に応じ学内キャリア支援センター、企業関係者、外部大学関係者にも輪を広げ勉強会を数回実施（参加者はH23年度の「福祉系キャリアデザイン」関係者）。学科としてのアウトラインをさらに煮詰めていく。… (1)
- ③ 国試の根幹科目であり、加えて昨年より1年次に60時間分の社会福祉士実習を降ろしたことで、淑徳独自の実学スタイルの素地が出来上がったことを受け、学年（理解度）の「差」を考慮に入れた「現場実習」のための書籍を作成するべく、担当教員が定期的に勉強会を開催。出版に向けての準備を行なった。後期には執筆活動に入り、年度末には完成にこぎつけることができた。… (2)

## 4 点検・評価

## CHECK

- ① 年度末までに、H25年度前期からの金曜日、学科・カレッジアワーを活用しての全15回・正課外プログラム骨子が出来上がる。微調整はこれまでの勉強会参加者が相互にネット上で行い（意見交換）、詳細を確認・修正していった。…… (1)
- ② 正課科目「福祉系キャリアデザイン」（1年・後期）として、勉強会での改善点をふまえたうえで、修正版（H24年度版）「福祉系キャリアデザイン」を年度後期に実施。その様子を記録媒体等で保存し、必要に応じ検討・改善の素材としていった。… (1)

- ③ 今年度作成した書籍（『はじめての相談援助実習』）を次年度からは本格的に活用し、その活用過程で点検・評価を行っていくことを確認する。…（2）

## 5 次年度に向けた課題

## *ACTION*

- ① 次年度の本格的実施に向けて出てきた課題を集積し、必要に応じ改変していくかたちで継続させていく。…（1）
- ② 福祉マインドを有し他分野のフィールドで活躍を希望するビジネスパーソンの本格養成に向けての人脈作りの「輪」を、学科として今後さらに拡げ、ネットワークづくりを強化していく。…（1）
- ③ 「現場実習」の初版本を土台に、何らかのかたちで継続させていくべく、シリーズ本の作成を「演習」領域に広げ構想・検討を重ねていく。…（2）

以上

# 1 教育課程 ②〔実践心理学科〕

関連委員会	
関連部署	実践心理学科
関連データ	・総合福祉学部・学科の授業科目

第1部

III 学部・研究科等による取組み

1 千葉キャンパス

## 1 平成24年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

- (1) 1年次の「心理学の基礎」、3年次の「心理学実践研究」、4年次の「心理学ワークショップ」の各科目における、授業内容の共通化の促進と異なる学年に配置された演習間の縦の連携をより進める為の共通教材の開発、ならびに2年次の「心理学基礎実験」、「心理学基礎実習」、「心理アセスメント基礎実習」の相互連携による教育効果向上のための共通教材の開発について検討を行う。
- (2) 現在の正課のカリキュラムでは対応できない、心理学を活かしたキャリア形成のための正課外プログラムを実施する。

## 2 具体的計画

## PLAN

- (1) 従来、シラバスは共通化していても、教える内容（授業を通して獲得される知識やスキル）についての統一化が不十分であった、各演習科目および2年次の各実習科目について、共通使用が可能な教科書を作成することを目指して、現状分析並びに執筆内容についての検討を行うことを計画した。
- (2) 心理学科のキャリア教育の充実を目指して、①心理学的キャリアについての理解促進、②心理学系公務員試験の受験対策、③大学院受験対策、④心理学を活かしたキャリア形成への意識付けのそれぞれを目的とする、正課外プログラムを実施する。

## 3 取組状況

## DO

- (1) 実践心理学科会後の学科FDで、既存のテキスト内容に関する検討、各ゼミでの活動内容についての情報交換、新しいテキストに求められる内容についての意見交換等を実施した。それらをもとに、大橋靖史実践心理学科長を中心に、テキスト執筆内容、執筆分担並びに編集方針の検討を進めた上で、淑徳大学教育研究助成への申請を行った。
- (2) 正課外プログラムとして①「心理専門職を知ろう」、②「心理系公務員試験対策講座」、③「心理系大学院試験対策講座」、④「心理学×資格コラボ」のそれぞれを実施。

## 4 点検・評価

## CHECK

- (1) 心理学演習用テキストの作成は、淑徳大学教育研究助成に採用され、さらにナカニシヤ出版からの出版も予定されている。25年9月現在、執筆者への原稿依頼も済んでおり、出版に向けて作業が進行中である。
- (2) 正課外プログラムの初年度としては、全く新たな企画のプログラムが無事に実施にたどり着いたことが評価に値する。その一方で、当初から想定されていた正課外プログラムの問題点、すなわち単位取得や免許資格の取得等といった明確なインセンティブのないプログラムでは参加者の確保ならびに出席継続の維持が困難であることが確認された。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

- (1) テキスト内容、執筆者の選定、執筆要項の作成、出版社の選定、内容についての執筆者間の打ち合わせの実施など、出版に向けた作業を進めること。
- (2) 正課外プログラムへの参加者の確保並びに出席維持の為に、プログラムの周知方法の改善、開講時期の再検討、開講期間を短期集中化させるなどの変更を行うこと、さらには企画内容をより魅力的なものへと充実させること等が課題となる。

以上

# 1 教育課程 ③〔教育福祉学科〕

関連委員会	
関連部署	教育福祉学科
関連データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の手引き</li> <li>・平成24年度 教職課程自己点検・評価報告書</li> <li>・課外教育補助等(表17〔※付表5〕)……………P.239</li> </ul>

## 1 平成24年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

- (1) 保育士や教育職を目指すものとして、学生が自覚を持って学習を進めるよう、教員が連携して教育に取り組む。
- (2) 完成年度に向けて実習教育の充実を図る。

## 2 具体的計画

## PLAN

- ① 1年次の「教職体験研究」の授業を充実させて、学生に教職について考えさせ、教職への自覚を高める。
- ② 学生たちが目指す免許資格にかかわる専門性を高めるために、3年次における正課外教育として専門研究ゼミの設置を目指す。
- ③ キャリア支援センターと連携し、全学年を対象とした教職に向けた支援体制を構築する。
- ④ 学生の教員としての資質向上のために、正課を補う教育プログラムを企画・実施する。
- ⑤ 平成25年度に向けて、実習教育センターと連携して実習指導の体制づくりをする。

## 3 取組状況

## DO

- ① 学校見学を、昨年度の1回から2回に増やして実施した。また事後指導を重視し、見学体験を振り返り、教職について考えさせた。
- ② 8つの専門研究ゼミを開設することに決め、平成24年11月22日に2年生を対象に説明会を実施し、その後、クラス編成を行った。
- ③ 平成25年度実施に向け、本学科の教員とキャリア支援センターとで協議し、課外講座を実施することに決めた。
- ④ 2年生までを対象とした新しいプログラムを企画し実施した。
- ⑤ 教育現場と実習の充実について協議するため、平成25年5月に「教育実習連絡協議会」を開催することに決め、学科長、教育実習運営委員長、実習教育センター室長とで計画を作成した。また、教職課程で「教育実習の手引き」を作成した。(参考：幼稚園、小学校、特別支援の「教育実習の手引き」)

## 4 点検・評価

## CHECK

- ① 教職体験研究は、教職への導入科目として、学生たちに動機付けをし、自覚を高めることに有効であることがわかった。(参考：「平成24年度 教職課程自己点検・評価報告書」)
- ② すべての学生の希望を叶えるようにはクラス分けができなかった。
- ③ 主に1・2年生をキャリア支援センターが支援し、主に3・4年生を教員が支援するという形で連携ができた。
- ④ ほとんどのプログラムで実施に必要な履修者を確保したが、一部あまり履修者が集まらないプログラムもあった。
- ⑤ 教育委員会や学校現場にも打診し、教育実習連絡協議会を開催できる準備ができた。また、「教育実習の手引き」の作成が完了したので教育実習の準備が大方整ったと言える。

- 学年が進むにつれ、目的を失う学生も出てきている。教職体験研究をさらに充実させると共に、その後の教育に生かすことが必要である。
- 学生に教師としての専門性を付けさせるために、科目間の連携も含め、教育方法や授業内容に関して教員間で検討し改善することが必要である。
- 平成26年度には教職課程の実習が始まるので、さらに現場との連携を含め、指導体制を充実させる必要がある。

以上

## 2 教育組織 ①〔社会福祉学科〕

関連委員会	相談援助実習運営委員会（福祉、精神）
関連部署	社会福祉学科、社会福祉学科・受験対策室
関連データ	・国家試験合格率（表10〔※表19〕）……………P.22

### 1 平成24年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

- (1)「教育課程」で述べた目標を前提としつつ、社会福祉学科で展開する講義科目、演習科目の教育効果を向上させていくため、基盤となる最近の学生理解の現状の共有化を学科として図っていく。その上で相談援助実習運営委員会（福祉、精神）とも連携を図りつつ、学生理解の現状を共有化していく。
- (2)今年度からスタートした学科直属の「社会福祉学科・受験対策室」を、学科運営と密接にリンクさせながら運営できるよう、その素地を整える。

### 2 具体的計画

### PLAN

- ① 学科必修科目である「対象者の理解と支援」（1年前期・2単位）から見えてくる学生の福祉に取り組む全般的状況を学科FDで共有化し、そこからどのように淑徳独自の教育プラン(アクティブラーニング、ルーブリックの検討も含め)構築の準備体制を整えていったら良いのかを考える。…（1）
- ② 全面的にスタッフが入れ替わったため、旧スタッフからヒアリングした内容の新スタッフ（対策支援員）への橋渡しは学科長が担う。併せて部屋の引越しを実施。「0」からも同然のスタートとなる。自転車操業状態ではあるが、リニューアルオープン（H24年5月連休明け）からの約1ヶ月、比較的学対対応が繁忙とならないこの時期に対策室体制を整える。…（2）
  - ・「受験ポートフォリオ」を始めとする各種書式の整備。支援体制内容の確認。教員組織（対策室運営幹事会の整備）との連携体制の確立。

### 3 取組状況

### DO

- ① 上述の学科科目から見えてくる学生の学力の共通理解（全教員会での学科報告）に加え、近年顕著になりつつある発達障がい系学生への対応（実習教育、キャリア教育も含め）を併せて、学科FDのかたちで最新の情報の共有化を図る。具体的には、他学科・専門分野の教員に講師を依頼するとともに、他大学で別途作成された障がい学生支援（全学体制）用DVDを視聴。（学科共通の素地を形成）…（1）
- ② 各種書式の体制が整ったところで、それを活用して学科生の状況を把握していく。各ゼミ単位で協力をお願いし、提出は学生それぞれに対策室へ来室してもらい、顔と名前の一致を図る。（支援体制の素地づくり）
 

また、毎月第4木曜日に運営担当幹事教員が対策室に集まり、当該月の状況を確認するとともに、来月に向けての運営上の課題を共有化する。ここで確定したことは最短の学科会で学科長より報告し、併せてキャリア支援センター室長にも報告を行い、学内連携体制の強化を図る。…（2）

### 4 点検・評価

### CHECK

- ① 学科科目への向き合い方にさまざまな課題を抱える学生、動機づけの低い学生に対する教育方法、教育機会をどう考えて行ったら良いのか、学科FDを通じて共有化。…（1）
- ② ①同様に「受験ポートフォリオ」を媒体として現れてきた学生の勉強やアルバイトとの向き合い方、一日の時間の使い方の課題等を受験対策室運営幹事会、併せて学科会で共有。…（2）

- ① 学科としての最近の学生への共通理解をふまえ、次年度以降、学科独自の教育体制づくりの本格的実施に入っていく（学科教育課程見直しの準備、アクティブラーニング、ルーブリック等の積極的な取り込みに向けての学科FD体制の充実・強化）…（1）
- ② 対策室の再スタートから約1年を経過し、国家試験（千葉キャンパス）において、まずまずの成果を残すことができた（全国平均約18%に対し、本キャンパスは35%弱）。しかし既卒者や他キャンパスの数字を含めると依然厳しいものがある。そうした現状もふまえ、「素地づくり」が今期出来たことで、今後はさらに卒業生支援も含め、きめの細かな支援体制づくりを図っていく。
- 「動機付けの低い学生への学習支援方法」に関しては、H25年度淑徳大学学術助成金を受け（決定）、さらに検討を深めていく。…（2）

以上



## 2 教育組織 ②〔実践心理学科〕

関連委員会	
関連部署	実践心理学科、研究科教育向上委員会
関連データ	・専任教員個別表

### 1 平成24年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

- (1) 実践心理学科FDにおいて、実践心理学科の演習科目と実習科目の授業内容の共通化と科目間の連携に向けた共通教材作成の検討を行う。さらに学科長を中心としたプロジェクトチームによって、将来の心理職への就職に繋がる専門的・心理学教育をより進めるべく、学部と大学院の心理学教育の一体化を目指した新たなプログラムの開発を行う。
- (2) 現状、大学院科目等により授業負担が過剰になっている実践心理学科教員の担当科目数に関して、正常化を図る具体的な方策を検討する。

### 2 具体的計画

### PLAN

- (1) 学科FDを行い、演習・実習科目の共通教材作成に向けて既存の教材の収集並びに分析を行い、さらには現在行われている演習内容の情報共有化を図る。その上で、共通教材として求められる具体的な内容を確定させる。学部・大学院一体化プログラムの開発については、学科長を中心としたプロジェクトチームにより継続的な検討を重ねて、具体案を構想し、大学執行部への提案を目指す。
- (2) 学部・大学院の統合的な整理を目指して、大学院カリキュラムの再編成、一部科目の兼任教員への担当変更などの可能性について、大学院の教育向上委員会と連携しながら検討を進める。

### 3 取組状況

### DO

- (1) 学科長を中心に行った既存教材に関する情報収集をもとに学科FDを実施し、既存教材の利点と課題、実践心理学科の演習・実習で行われている授業内容の分析、共通教材に求められる内容について検討を行い、25年度に作成予定の教材の具体的な内容、編集方針などを確定させた。学部・大学院一体化プログラムに関しては、プロジェクトチームによる複数回の検討を通して具体案を作成し、学長への提案を行った。
- (2) 大学院のカリキュラム再編の検討と連携して、学部科目の整理および担当変更の可能性についての検討を行った。

### 4 点検・評価

### CHECK

- (1) 演習・実習のための共通教材作成は、淑徳大学教育研究助成に採用され、現在出版に向けて準備中である。学科としてのこのための取り組みは一定の成果を得ていると言え、評価できよう。一方、学部・大学院の一体化プログラムの開発に関しては、プロジェクトチームを中心に構想した具体案を学長へ提案することまで到達したものの、その実施に関しては現在留保されている。取り組み結果をいかにして形にするかが、今後の課題となっている。
- (2) 25年9月現在、大学院の新カリキュラムの提案に応じて、専任教員の担当科目の正常化に向けた具体案作りが進んでおり、24年度の取り組みが形となってきている。

### 5 次年度に向けた課題

### ACTION

- (1) 演習・実習の共通教材については、開発された教材をどのように活用するかについて、今後、学科ぐるみの検討が求められる。学部・大学院一体化プログラムについては、提案したプログラムを実施するための方策を模索しなければならない。また、高度な専門教育を求める学生のための教育の充実だけでなく、学部で心理学を学びそれを活かして就職することを望む学生のための教育を一層充実させることに関しても、学科として検討を進める必要がある。
- (2) 現在検討中の担当科目数の正常化方策は必ずしも十分とは言えないことから、学部科目の担当者変更、さらには学部カリキュラムの再編などによる抜本的解決策の検討が求められる。

以上

## 2 教育組織 ③〔教育福祉学科〕

関連委員会	
関連部署	教育福祉学科
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

1 千葉キャンパス

### 1 平成24年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

- (1) 教育方法や教育内容の改善のために、学科の教育向上推進委員会が中心となり、計画的にFDを実施する。
- (2) 教職体験研究担当者会で、教職体験研究の教育改善を図る。

### 2 具体的計画

### PLAN

- ① 前期と後期に1回ずつ、学科のFDを実施する。
- ② 「教職体験研究」のシラバスを点検し、授業の実施の仕方や、見学実習の実施方法などを検討すると共に、実施後、次年度に向けての評価を行う。

### 3 取組状況

### DO

- ① 学科の教育向上推進委員会の企画により「教育福祉的支援のできる人材の育成」をテーマに、平成24年7月12日と平成25年1月24日にFDを実施した。それに加えて、学科長提案により、平成24年9月1日の教員ガイダンスの際に「保育者・教員養成における教科間の連携による教育内容の充実」をテーマに非常勤講師も含めてFDを実施した。
- ② 平成24年4月5日、4月12日、5月17日に見学実習を中心に教員間で実施方法などについて検討し共通理解を図った。また、12月20日に反省会を実施した。

### 4 点検・評価

### CHECK

- ① 学科名である「教育福祉」について教員間で話し合ったことがなかったので、意見交換ができたことは有意義であった。しかし、時間の制約もあり、十分な話し合いはできなかった。科目間連携に関わるFDについては、学生についての共通理解で終わった感がある。授業内容まで踏み込む時間的余裕がなかった。
- ② 「教職体験研究」について教員間で何度も検討したので、有意義な実習となった。また、反省会において、次年度のシラバスまで検討し、教員間の共通理解が深まったと共に、授業内容の改善もできた。

### 5 次年度に向けた課題

### ACTION

- ・教育効果を高めるためにも、教育福祉学科としての教育のあり方については時間をかけて議論する必要がある。
- ・「教職体験研究」は複数開講なので、クラスにより教育の質に差が生じないようにする必要がある。そのためにも担当者会で授業内容、特に見学実習後の指導のあり方を検討する必要がある。
- ・教育の質を向上させるためには、各免許資格課程及び教職課程運営委員会がカリキュラム・教育内容に関して検討し、学科全体としてその結果を共有することが必要である。

以上